

まえがき

いまここに刊行されるのは放送教育開発センターの「紀要別冊」第2号である。「紀要別冊」の発表がどのような趣旨で決定されたか、については紀要別冊の第1号に「刊行のことば」としてしるしたから、ここでくりかえすことはしない。この報告は著者がその前任地である国立オリンピック記念青少年総合センター在職当時におこなった調査を中心に、放送教育開発センターでの知見をくわえた研究報告である。放送教育開発センターはさまざまなメディアを利用した高等教育の研究開発をその責務としているが、それらメディアの最終的な利用者、あるいは受益者たるおおくのひとびとについての研究は伝統的な「視聴者調査」といったかたちでおこなわれてきたのが現状である。当センターでは、量的調査とならんで質的調査をさらにすすめてきている。それらの研究成果はそれぞれに進行しているが、社会的にはすでにカッツらの古典的研究をひきあいにだすまでもなく、メディアの利用者がけっして原子論的「個人」ではなく、おおむねなんらかの「集団」をつうじて学習していることに注意したい。

著者がこの報告でこころみたのは、そうした学習集団としての青年グループの類型化であり、さらにいうなら社会心理的な動機づけの研究である。それは、かならずしもメディア接触の問題にふれてはいないが、メディアの受け手としての現代の青年たちのミクロの社会構造を具体的事例にもとづいて考察している。当センターの研究成果刊行委員会からの推薦のもとに、ここにこの報告書ができあがった。まことにうれしいことである。著者のさらなる研究を将来に期待しつつ、まえがきとする。

1991年12月6日

放送教育開発センター所長
加藤 秀俊